

剣淵町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

剣淵町では、剣淵市街地（JR剣淵駅）と剣淵温泉レークサイド桜岡間、市街地温泉連絡線（通称・温泉バス、1路線）は、利用がしやすく長期的・安定的な運行維持を図るため、通年運行、安価な運賃での運行とし、特に主な利用者の70歳以上の町民は無料としている。

このことに加え、利用者の意見・要望等をこまめに聞き取りすることで、誰にでも利用しやすい環境を整え、バス利用者の増に努めている。

この事業は、主要幹線交通への連絡も目的としており、これからもJR宗谷本線及び道北バス名寄線と地域内フィーダー系統とが一体となった運行体系を継続していく。また、スクールバスと一般混乗を行っている混乗型バス（3路線）の運行を継続していくことで、引き続き利用者に向けて、剣淵町の公共交通体系を維持しつつ、地域住民の足となる交通手段の存続に向けて利用の促進を図る。

生活交通確保維持改善計画の目標

- 市街地温泉連絡線
令和6年度目標値 6,100人（実績 4,980人）

令和6年度事業概要

○市街地温泉連絡バス運行事業（市街地温泉連絡線）

- ・運送者 剣淵町
- ・運行系統 市街地温泉連絡線
起点 JR剣淵駅（剣淵町仲町2番地3）
終点 剣淵温泉レークサイド桜岡（剣淵町東町5141番地）
- ・運行期間 継続運行（令和5年10月1日～令和8年9月30日 3年間）
- ・運行日 通年運行
- ・運行回数 1日5回（ただし、金曜日のみ2回）、年間運行実績 1,614回
- ・運行距離 8.1km
- ・運賃 全区間乗車1回につき 大人50円（小人30円）
なお、70歳以上の町民は無料

地域公共交通の現況

- 鉄道：JR北海道（株）〔宗谷本線〕
- 路線バス：道北バス（株）〔名寄線〕
- 都市間バス：道北バス（株）及び北海道中央バ（株）〔名寄線〕
- ハイヤー：（株）士別ハイヤー
- 町有バス：市街地温泉連絡線バス
- 町有バス：一般混乗型路線バス
- デマンド型：乗合自動車（士別ハイヤーへの委託）

協議会開催状況

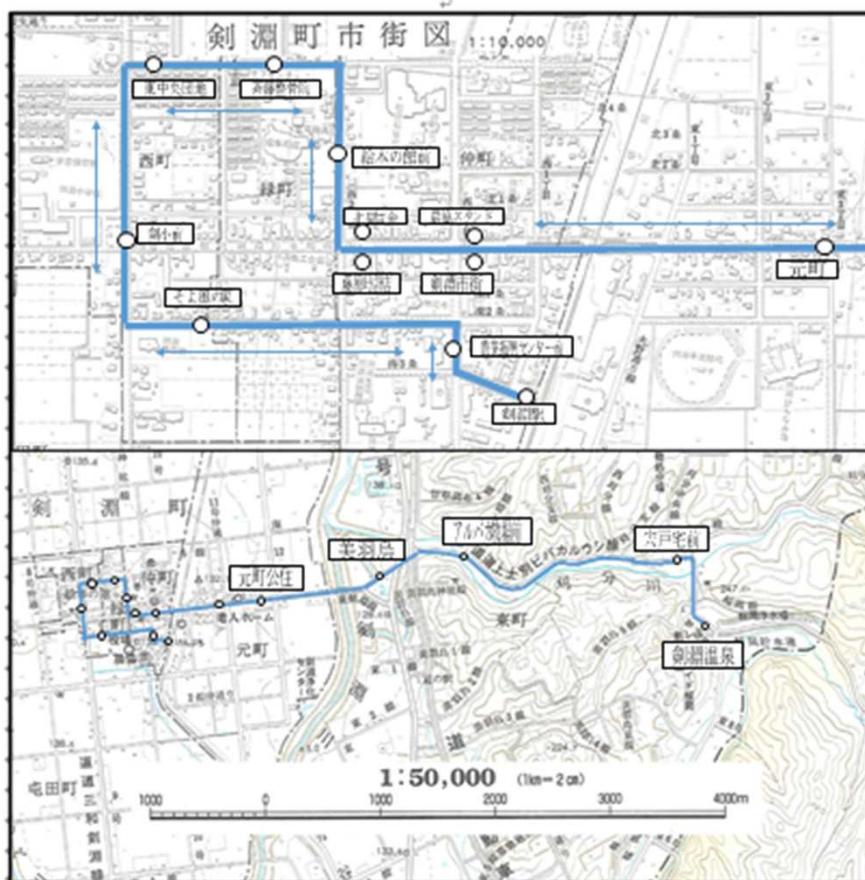
- 令和5年12月13日
令和5年度 第3回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
議題 剣淵町地域公共交通計画の作成について
令和5年度事業評価案について
- 令和6年2月14日〔書面会議〕
令和5年度 第4回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
議題 剣淵町地域公共交通計画の原案について
剣淵町有バス時刻の変更について
- 令和6年3月25日
令和5年度 第5回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
議題 剣淵町地域公共交通計画の成案について
次期委員の選出について
- 令和6年6月7日
令和6年度 第1回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
議題 剣淵町地域公共交通活性化協議会（組織）について
剣淵町地域公共交通計画の一部改定について
ノーカーデーの取組み（案）について
- 令和6年12月3日〔書面会議〕
令和6年度 第2回剣淵町地域公共交通活性化協議会の会議
議題 令和6年度事業評価案について

令和6年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- 公共交通空白地の運送として、交通弱者と言われる高齢者、障がい者等の利便性を考慮しつつ、市街地温泉連絡線を運行する。
- 市街地温泉連絡線及びスクールバスと一般混乗を行っている混乗型バスについては、鉄道（JR剣淵駅）、路線バス（剣淵市街）との連絡に配慮した運行時刻とする。
- 市街地温泉連絡線の主な利用者は 温泉施設の日帰り入浴の高齢者で、特に70歳を超える町民の利用である。なお、料金については、70歳を超える町民は無料とする。
- 午後の第3便目は、平日運行と土・日曜日、祝日運行に分けていたが、主たる利用者が温泉施設の日帰り入浴客（町内の高齢者）で、利用者の声（意見）を受けて、令和6年4月1日から、令和6年3月31日までの平日運行の時刻に統一し、利用者の利便性を図る。
- 令和5年11月1日から、中型車1台の廃車、14人乗り車両1台入れ替えし、小型化で運行経費抑制と高齢利用者の乗りやすさの改善を図る。

2) 運行系統



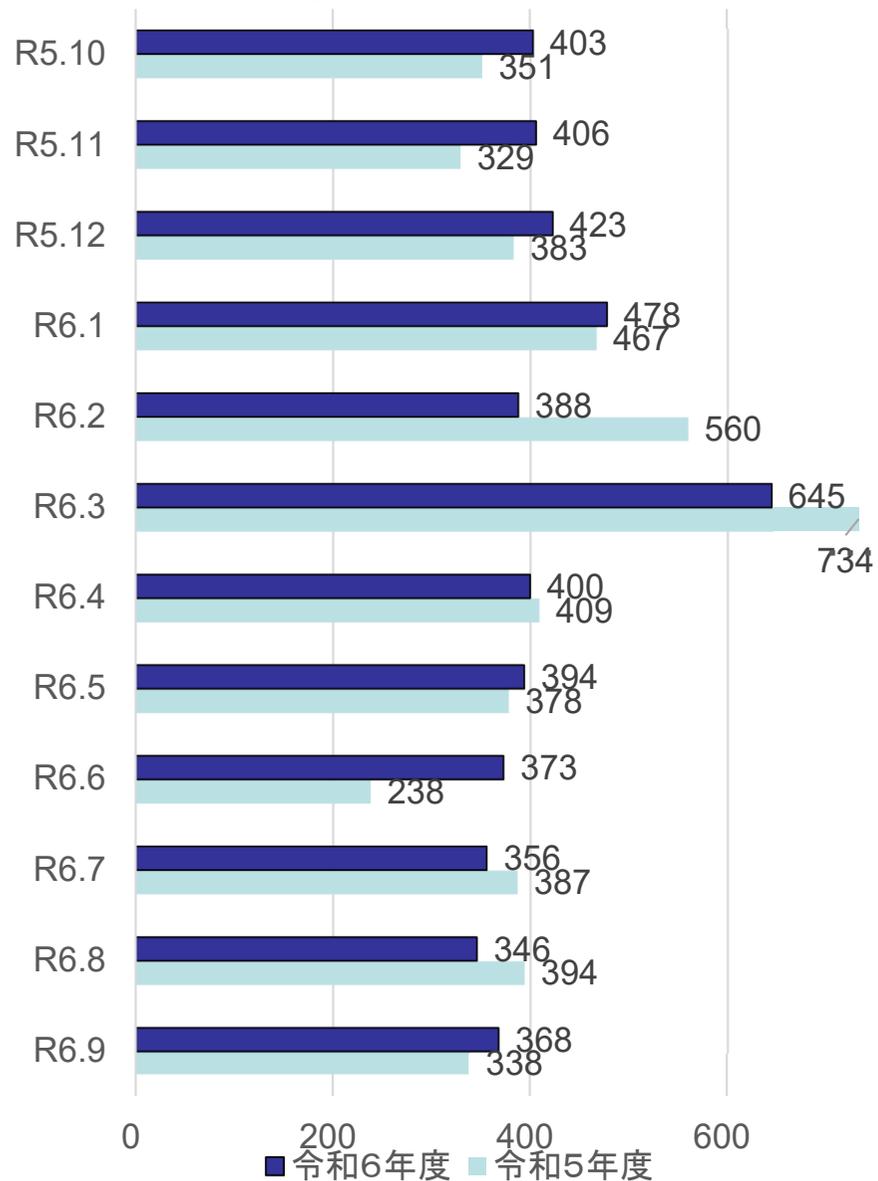
【凡 例】

- 市街地温泉連絡線バス
- 既存路線

3) 利用実績 (人)

令和6年度 4,980人 令和5年度 4,968人

市街地温泉連絡線



4) 収入実績 (円)

令和6年度 23,840円 令和5年度 34,050円

市街地温泉連絡線



5) 事業実施の適切性

○剣淵町地域公共交通計画に位置づけの継続事業の実施とともに、新規事業の一部は調整段階又は今後検討として一部実施を図る。

7) 事業の今後の改善点

○主たる利用者は70歳を超える町民で、無料運賃の対象者である。これにより運賃収入は僅かとなるものの、当該対象者への福祉的支援からのことである。しかしながら、今後も運行に係る経費は増すことが見込まれ、剣淵町地域公共交通計画に掲げる収支率を高められるように、運賃の引上げ改定の検討、各種事業等を効果的に進めるよう努める。

6) 目標・効果達成状況

○目標値が6,100人に対して、その実績は4,980人であった。昨年度より100人目標値を高めるものの、実績では12人の増に留まった。
新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日から感染症分類・5類に移行し、普段の日常生活、社会活動に戻るものの、コロナ禍前の利用状況（令和元年度7,441人）には至ってはいない。
加えて、当該路線に連絡の剣淵温泉レークサイド桜岡においては、日帰り入浴及び宿泊利用の減少が見られ、当該施設利用との関連性からも市街地温泉連絡線の利用に影響があるものと推測できる。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

（令和7年度分と併せて評価）